ACADE見IC No.175

金曜日、京大にひときわ活発な議論が交わされる人気講義がある。内容は「起業論」「ディベート」「交渉論」「意思決定論」と多岐に渡る。今回は、その壇上に立つ瀧本哲史先生にお話をうかがった。（猫ろ餅）

京都大学産官学連携本部
瀧本（たきもと） 哲史（てつふみ）
客員准教授

研究について

今、僕が専門としているのは「起業論」というもので、簡単に言えば会社の一生をどうしていくのかという学問です。まず事業領域の選択から始め、ビジネスプランの作り方、創業メンバーや資金の集め方を学ぶ。そして事業拡大、会社売却まで、ベンチャー企業の入口から出口までを扱う学問といえます。以前まではビジネススクールで教えていたものなんです。しかし最近では理系の学生が持つ技術・知識を自ら事業に活かせるようにしようというニーズがあって、全学共通課程に置く大学が増えていますね。

ただ、起業論一筋だったわけではなくて、助手をしていたころは民法が専門でした。そのためにいろんな言語を学んだりしたのですが、ある時先人の出した結論に納得してしまいまして。一生を懸けてやる研究ではないなと思って、結局３年くらいで辞めてしまいましたね。

今必要な「起業」

Facebookを創業したザッカーバーグはとても若い。それで学生ベンチャーを推奨する風潮があるけど、僕は必ずしも勧めはしません。というのは生半可なベンチャーは求められていないからです。

今、中国が日本を追い上げているように、かつて日本がアメリカを追い詰めた。その時のアメリカがまさに今の日本と同じ状況だったわけです。そんなアメリカを再建したのが、それまでの主たる企業を押しのけ成長したMicrosoftやGoogle。日本に必要なのはそうした今ある会社に打倒しうるベンチャーと、それに見合う戦略の練れる人材なのです。

だから日本でいえば東大生や京大生、その中で起業に向いている人に勧めますね。さらに学生のうちにやってもなかなか成功しないだろうから、ある程度社会経験も積み、その上でタイミングを見計らって起業するのがベストだと思います。

講義の狙い

僕の講義は全部、こちらが一方的に喋って終わるのではありません。必ず問題を出してそれを参加者全員で考えるという形を取っています。その問題も答えが１つに定まるようなものは出していません。これは、教えたことを再現することではなく、自分の頭で考えることを重視しているからです。

特に意思決定論では、ゲーム理論や統計学など、さまざまな学問分野の手法を広く学ぶ。それらを自ら考えていく手掛かりにしようということを目的にしています。だから理論部分の細かい話はせずに、どういう手法があるのかを示すというスタイルをあえて取っています。

学問的なアプローチが現実の問題を解決するのにとても役に立つということをまず学んでいただきたい。そして学んだことを元にして、自分の頭で考えていける人になってくれたら嬉しいですね。

はみだしすてーじ

ピザって100回言って。（文・４　ペンネームなし）
⇒ピザピザピザピザピザピザピザピザぴざぴざぴざぴざぴざぴざぴざぴざぴざぴざぴざぴざ……（ピザぴざぴざぴざぴざぴざ……；編）

プロフィール

東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

東大法学部卒業後、東大大学院法学政治学研究科の助手を３年ほど務める。

↓

McKinsey&Company

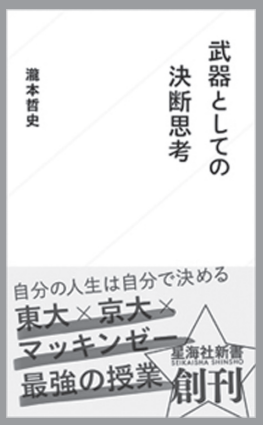
マッキンゼー＆カンパニーへと就職。数々のコンサルティング業務をこなす。

↓

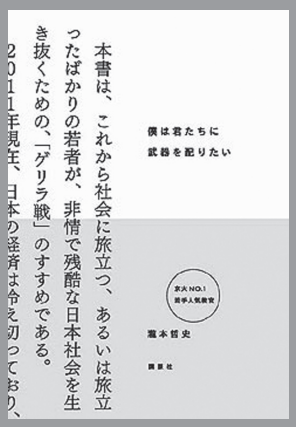
CoDA

独立後、経営アドバイザーなどを経て、エンゼル投資家、全日本ディベート連盟（CoDA）代表理事など、多くの兼業をしつつ、現在京大にて教鞭をとる。

著作「決断思考」・「僕武器」



◀『武器としての決断思考』（星海社新書）



◀『僕は君たちに武器を配りたい』（講談社）

瀧本先生初の著書『武器としての決断思考』、『僕は君たちに武器を配りたい』が今年9月22日に発売された。白地に文字のみの表紙が特徴的だ。

これからは自分で考える力が時代を生き抜く「武器」になる。何も考えずに勉強してきた人、好きな科目ばかり勉強してきた人、やりたいことが見つからず不安を抱える人……きっと多くの人が当てはまるだろう。そんな人はこれらの本を手にとって、自分なりの「武器」を見つけてみてはいかがだろうか。

経歴について

いろんな仕事に携わってきたのは、そこにチャンスがあれば取りに行くべきと考えているからです。たとえばマッキンゼーを辞めた時。この時は知人が継ぐ家業が借金を抱えていて、その再建を手伝うことになりました。大企業で何年も同じような仕事をするよりも、誰にもできなさそうなプロジェクトに参加するほうがよほど有意義だと思ったからです。今世紀中には返済できないと言われていた借金を３年間で返済の目処をつけ、黒字にしたときはすごく達成感がありました。

まぁ正直に言うと飽きてきたから変えてきただけなんですけど（笑）。そんな調子で、たまたま見つけた面白そうな仕事をこなしてきたら、こんな経歴になってしまった。ほとんど定職に就いたことが無いので、その意味ではフリーターともいえますね。もしかすると、京大の教員もいつか辞めるかもしれないですよ。

意思決定の魅力

僕の究極的な興味は意思決定です。投資業は意思決定が重要になる典型例ですね。たとえば、みんなが今は石油が高すぎると思っているときに、いや高くないと思って買って、その後にさらに値上がりすればもうかりますよね。このように投資には、少数意見が多数意見になる過程で利益が生じるという本質的な構造が存在するんです。重要な基準を見抜き、何か判断をし、正しいとリターンがある。これが楽しい。端的に言ってしまえば出し抜くのが好きなんだと思います。「みんな間違っているな、本当はこっちなのに」という状態がたまらない（笑）。

一見支離滅裂に見える職歴も、実はすべて意思決定が鍵になる職業ばかりだったりする。一番興味のあることを仕事にしているので、辛いと思ったことはないし、僕自身にとっては仕事というよりはむしろ趣味のような感覚です。

京大生に向けて

京大生は良いところも当然あるんだけれど、東大生と比べて明らかに負けていると思う点が１個ありますね。それは、学問に限らず課外活動も含め、徹底度合いが足りない人が多いこと。東大は成績順に希望学部を決めるので、常に緊張感がある。それに対して京大はみんな仲良しすぎると思います。

自由の学風は良いとは思うけど、自由というのは活用できなければまったく意味が無い。やはり自由があることは素晴らしいのだから、何でもいいからとにかく徹底的に打ち込んでみるといいと思います。京大にはそれができる地盤がありますから。自ら考えて、自由を活用できるような学生になり、ゆくゆくは外の世界へとはばたいていってほしいですね。

――ありがとうございました。

はみだしすてーじ

……１はみだし無駄使い。（工・院　chass）

⇒ピザピザピザピザピザピザピザピザぴざぴざぴざぴざぴざぴざぴざぴざぴざぴざぴざぴざぴざぴざ……（残念、僕のほうが無駄だ；編）